

平成 26 年度 第 1 回 エンデューロ部会 議事録

【ダイジェスト版】

開催日：2014 年 7 月 8 日(火) 午前 10 時 30 分～

開催場所：MFJ 会議室(東京都中央区築地 3-11-6 築地スクエアビル 10F)

➤ 事務局より

近畿エンデューロ部会が新設され、奥村善武氏が近畿部会長に就任し、本部部会員となったことが報告された。

1. 前回議事録の確認

平成 25 年度第 2 回エンデューロ部会議事録が提出され、承認された。

2. 開催状況報告と暫定ランキング

1) ライセンス登録者数について

事務局より資料に基づき、ライセンス登録状況について報告された。

- ライセンス登録者は“右肩下がり”の傾向で、高齢化が進み、現時点では 40 歳代が中心となっている。
- 6 月 30 日時点の昨年同日比表より、エンデューロは国際ライセンス(IA・IB)が 90%と減少しているものの、国内ライセンスが 167%と増加。特に新規取得者が増加傾向にあることから、エリア選手権開催の取り組みや全日本選手権初開催となる近畿大会(プラザ阪下)による効果とみてよい。
- 但し 2012 年から 2013 年(昨年)にかけて 82%と減少してからの巻き返しである為、継続的な競技会数の確保とオンタイムエンデューロの普及対策を行っていかなければ、減少してしまう恐れもある。
- 国際クラスの減少については、全日本選手権シリーズとしての魅力の低下、マンネリ化等の要因が考えられ、魅力のある競技会作りをすべく、MFJ エンデューロ部会で積極的な施策を提案しなければならない。

2) 全日本開催状況について(第 1 戦広島大会終了時点)

- 観客数は、天候に恵まれ昨年同等。
- ライセンス登録数は増加しているものの、第 1 戦のエントリー台数は、IA(83%)、N(84%)が減少し、IB(125%)と W(200%)が増加。全体では前年比 95%であった。
- JEC プロモーションより、第 1 戦参加者のデータが提出され、年齢別では 40 代(48%)、30 代(32%)、50 代(11%)であったこと、出身県では、広島県、静岡県の高率が高かった。第 2 戦以降も同様のデータ提出が部会から要望された。

3) 安全対策について(要望)

JEC プロモーションより、特にオンタイム方式のエンデューロは、コースも長く使用面積も広い為、コーステープの使用数が主催者の大きな負担となっている。また、MFJ 本部からの指導により、ライダーの同行者や観戦者に対する事故発生防止の観点からも、立入禁止区域を明確にし、コース設営をすることが必要不可欠となっているが、コーステープが不足しており、MFJ より支援してほしいと要望された。

MFJ 見解

- MFJ も経済的に厳しい為、全額は難しいが、購入補助(低額販売、資金援助等)で検討したい。
- 大量のコーステープを製作する場合、コストは削減されるが、保管場所等も予め考慮しておくべき。
- ライダー同行者であってもライダー登録や PIT クルー登録が無ければ、観客同等にみなされる。

継続審議

- 🚩 コーステープの製作費用を検討する為に、全日本エンデューロにおける必要数の確認を JEC で行う。(参考情報:SUGO2DAYS の場合、6km 分×左右=12km 程度使用している)

- ✚ JEC で製作した実績のある業者にも確認して頂き、製作コストを極力安価にする方法を検討する。
- ✚ テープだけでなく、「立ち入り禁止」の看板等も併せて製作を検討する。

4) その他報告事項

- MFJ とリンクしている JEC プロモーションの運営する web サイト(<http://jecpro.com/>) が紹介された。
- 2014 ライディングリミテッドが 6/25 に発行され、近畿大会場と日高 2DAYS 会場で配布して頂くよう依頼。
- MFJ オンラインマガジンに Facebook による情報配信が開始された。
- 評議員の風間深志氏主催による「サンライズ・サンセット・ツーリングラリー」が 5/24-25 に開催された。
- 今年も、11 月 5 日(土)～6 日(日)に MFJ 特別競技会として「WE RIDE 三宅島エンデューロレース」が開催される予定であることが報告された。
- 既に決定済である 2014 エリア選手権シリーズ(北海道・東日本・西日本)のカレンダーとポイントスケール表が提出された。
- 第 1 戦広島大会終了時点での暫定ランキング表が提出され、承認された。
- 第 2 戦近畿大会の大会特別規則が提出され、第 1 戦で申し送りされたコース設定の基準に関する問題(上級者～入門者まで一斉に競技を行うことで発生する渋滞等)の対応策として、午前中に全日本ウイメンズ・承認 B・C クラスを行い、午後から全日本 IA・IB・N クラスを開催する方式で行うことが説明された。今後のモデルケースとして参考となる為、次回委員会にて選手の感想等を報告する予定。

5) MFJ 事務局検討事項について

① 観客保険料

競技会での賠償リスクから主催者を保護する為に設定している観客賠償保険掛金は競技会申請時に主催者から公認料とともに徴収し、MFJ が保険会社と一括契約しているが、事例の多発により保険掛金が値上がり、さらに競技会申請数の減少もあり、本制度を支える為、保険掛金を以下の通り改訂することが説明された。

<改訂提案>	全日本 ED 選手権	・・・	16,000(保険料)	+	7,000(申請料)	=	23,000 円(合計)
	ED エリア選手権	・・・	16,000(保険料)	+	7,000(申請料)	=	23,000 円(合計)
	ED 承認競技会	・・・	10,000(保険料)	+	7,000(申請料)	=	17,000 円(合計)

※保険掛金のみ値上げとし、申請料は据え置きとされている。

※2015 年 1 月 1 日以降に開催する競技会に対し、適用とする。

② 競技会申請期限

2014 年 11 月から競技会の WEB 申請を行うよう準備が進められており、申請期限を下記の通り変更することが説明され、承認された。

- 前年 11 月末 世界選手権、国際選手権、MFJGP、国際競技会
- 前年 12 月末 準国際競技会、特別競技会、全日本選手権、エリア選手権、地方選手権
- 開催日 1 か月前 その他公認競技会、承認競技会、承認行事

※2015 年 1 月 1 日以降に開催される競技会に対し、適用とする。

③ ライセンス取得講習会

MFJ ライセンス取得講習会の申請料を年間で 1 度支払えば、年内は何度でも開催可能とする。また、インストラクターの資格制度の有効活用として、MX(PC・J)、TR(J)、SN(J)、エンジョイライセンス取得の権限を持たせる。 ※2015 年 1 月 1 日以降に開催される MFJ ライセンス講習会に対し、適用とする。

継続審議 ライセンス講習会年間申請料の金額設定は、MFJ 本部事務局にて次回までに決定し、報告する。またインストラクターセミナーの資格も今後はご活用頂きたい。

※要望:インストラクターセミナーの開催について、「休日開催は施設担当者が出席できない為、平日も開催してほしい」、「オフシーズンに開催してほしい」等の要望があった。

④ エンジョイ会員

承認競技会の活性化対策として、エンジョイ会員の金額設定を引き下げることが報告され、承認された。

	会費	保険区分	保険料		手数料	新料金	現状
エンジョイ会員	1,000	C	1,850		500	3,350	5,350
	1,000	A-1※	800	※2015年3/31 まで中学生以下	500	2,300	4,350

※2015 年度エンジョイライセンス(有効期間:2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)から開始とする。

⑤ 公認競技会のポイント対象期間

ライセンス期間(4月～3月)と競技会期間(1月～10月)の違いから、資格確認や作業的な面で不都合が生じていないかどうか?各地区代表委員より参考意見として伺った。

結論

エンデューロ部会としては、スポーツ年度を1月～12月まで、ライセンス有効期間を4月～3月とする意見が多かった。他種目の意見も踏まえ、中央スポーツ委員会で最終決定することで合意された。

3. 2015 年度主要競技会日程

暫定日程	大会	会場	備考
※7月5日	全日本近畿 1DAY	プラザ阪下	※後日提案
11月21-22日	全日本 SUGO2DAYS	SUGO(宮城)	希望

※その他全日本大会は、エリア選手権等との兼ね合いで現状では調整がつかない為、次回までに調整される。

✚ 各地区のカレンダー調整進捗状況は以下の通り。

- 北海道 来年の全日本開催については、北海道内で引き続き調整を行う。
 クロスカントリーシリーズ第4戦目の会場について、地元からの開催自粛要望の声があり、会場変更が検討されていることが報告された。
- 東北 全日本も開催されていた定義が閉鎖された。新会場に銀山が候補として上がり検討している。
- 関東 東日本エリアシリーズを勝沼(山梨県)で開催したいとの要望があり、2015年に開催すべく、東北地区と協議を進めたい。また、三宅島 ED レースは、路面土質が難しいものの、多くの方が楽しめるようコース設営の改良を検討している。
- 中部 2015年に向けてエリア選手権の開催を検討したいが、会場が不足しているのが現状で、いなべ、コスモスポーツランドを候補地として調整を進めたいと考えている。
- 近畿 今年、プラザ阪下で全日本を初めて開催すべく、準備を進めている。今年の状況をみて来年度以降の開催について検討する。
- 中国 今年の全日本は終了したが、テージャスランチも定着してきた印象。来年度開催については、現在検討中。また、エリア選手権の新会場としてスキー場が使用できるとの情報もある。
- 九州 2015年度から、西日本エリア選手権から独立し、「九州エリア選手権シリーズ」を開催するよう現在調整中。現段階の予定では、クロスカントリーレース5戦、オンタイムレース3戦程度とし、有効ポイント制を適用するかどうか?検討している。
 ※西日本エリアに九州地区を含めた場合、ライダーの遠征負担が大きくなることから、九州地区内の選手権シリーズ開催を要望する声が多く、要望に応えたいと考えている。

4. 普及対策と 2015 国内規則改訂案

事務局より前回の普及対策において課題とされた事案について再度説明され、未着手となっている事項を含め、課題が整理された。

1) エンデューロオンタイム競技方式の促進
① 普及冊子の作成

前回決定事項に基づき、草案資料が提出された。

草案の内容は、エンデューロ競技初心者(エンジョイ会員)を対象に、エントリーから競技会に参加するまでの流れが簡単な表現で書かれ、JEC プロモーションのサイトに誘導し、エンデューロに興味を持ってもらうことを想定している。イラストや図を挿入し、さらにわかりやすいテキストになるよう作業を進め、JEC ライツ・アカデミー等で活用して頂く。

継続審議

草案を各部会員持ち帰り、修正・追加箇所の意見を本部事務局へ 8 月末日までに連絡する。

② 動画作成と公開

藤原部会長より、SUGO2DAYS にて撮影された素材はあるが、編集作業の必要があると報告された。

まずは普及冊子の製作を優先とし、不足の印象があった場合に動画の製作を検討することが決定した。

2) コース設営のガイドライン作り

第 1 戦広島大会の申し送り事項に基づきコース設営に関するコンセプトの統一解釈が事務局から提案された。

① 設営時のコンセプトの統一化 (全日本上級者に併せるか?ビギナー向けに誰でも走れるコースか?)

② どのクラスを基準に設営するか?

① 設営時のコンセプトの統一化 (全日本上級者に併せるか?ビギナー向けに誰でも走れるコースか?)

意見

- コース設定は、当該地区部会長が中心となり大会ごとにコンセプトを決める様前回部会で決定している。
- コース設定者の主観に任されている要素が強い為、統一化を図る為には同一人物による設営・チェックが必要不可欠である。
- 初心者から上級者が走れるコースを別設定ができれば良いが、現状開催されている会場では難しい。
- JEC 競技会の立ち上げが全日本選手権からスタートしていることも要因のひとつではないか?
- 全日本選手権は、上級者(IA/IB)のレベルに併せた設定にすべき。選手の達成感を与えることが優先。
- 事前の情報不足ではないか?この機会に、クラス別の難易度をライダーに理解を得た上で参加を募集することにした方がよい。特に、ナショナルと承認 B/C はライセンスが簡単に取得できる為、あらかじめの情報提供が有効である。
- 第 1 戦広島大会の設定は、想定通りと言ってよい。達成感を感じていた選手の声も多かったし、完走できない選手の中にも「次回またチャレンジしたい」と言った選手の声もあった。反省点として、ラインがクロスした箇所があり、安全面の観点で再考の余地があった。また、クロステストでの渋滞が発生した箇所があり、承認クラス出場者は慣れていない分、ラインの見極めが難しい様で、結果として遅くなってしまうと検証された。エンデューロは、極力ラインを 1 つにする方が望ましい。
- コースを簡単にすることが望まれている訳ではない。
- 承認クラス(特に B クラス)の中には IA レベルの選手もいる為、潜在的にも考慮しなければならない。
- コースの難易度だけでなく、タイム設定でクラスを分ける方法もあるのではないか?
- シリーズ各大会で主催者のコンセプトに統一感が無いことは、ライダーにとっては望ましくないのでは?

② どのクラスを基準に設営するか?

意見

- コースチェックマンを全戦で派遣し、設営の統一化を図るべき
- 承認クラスと全日本レディースクラスは難易度を下げ、全日本 IA・IB・N は難易度を高くすべき
- 事前にコース告知をすると、事前練習してしまう恐れがある為、概略のみとすべき
- 例えば、設定予定ルート of 難易度を 5 段階で評価し、難所を事前情報として開示すべき。
- コース規定の設定が提案されたが、文章で表現することは不可能。

結論

- ✚ 設定コンセプト <①難易度高:全日本 IA、IB、N ②難易度低:全日本 W、承認 B、承認 C>
※全ての天候に対応できること。
※①は走り応えを重視 ②は全員が楽しめることを重視
- ✚ 告知方法 コースマップの概略を JEC プロモーションのサイトに公開し、難易度を表示する。
※「但し、当日コースが一部修正される可能性があります」の一文を入れる。
※コースコーディネーター又は競技監督が、コースの特長を文章で紹介する。

③ 国内競技規則の訂正
決定

279 ページ **29** テスト 29-1 クロステスト(CT)

クロステスト(CT)のコースは、スタートとゴールが隣接し、1～6km(目安とする)のコースが設定されていること。閉鎖されたクロステストのコースは、~~使用される 48 時間前までに~~告知されていなければならない。

事前に
3) 地区部会普及活動報告
■ 北海道部会

承認クラスでの開催は、ライセンス取得義務がライダーの経済的負担となっている為、ライセンスを所持しないレースを行うよう提案したが、MFJ 北海道理事会において、保険の都合上「ライセンス取得は義務条件」と回答された為、エリア選手権等の大会終了後にエンデューロ体験会(参加費 1000 円)として参加者を募っている。車両持ち込み。

■ 東北部会

SUGO は「トレールシリーズ」として MFJ ライセンスを必要とせず施設保険で、体験走行会を実施している。毎回、60～70 名にご参加頂いている。

■ 中部部会

まずは、中部地区内でエリア選手権を開催し、将来的に全日本選手権も開催を視野に入れて活動を続ける。

■ 近畿部会

新たに部会を設立し、全日本選手権開催準備を進めている。

全日本を実施するにあたり、関西でスクランブルレースを主催しており、オンタイムエンデューロは、初めてだが、JEC ライツとエリア選手を経験し、オンタイムエンデューロの素晴らしさを関西で広めたいとの想いで開催する運びとなった。本会で課題とされているオンタイム方式の問題点を解消すべく、近畿大会で様々な施策を試したい。エンデューロ競技会は、エントリー収入のみで賄わなければならない為、主催者の負担が大きく、会場準備も本来であれば会場を借用して設営しなければならない所を、プラザ阪下様のご厚意で安価に借用することができた。エンデューロで課題とされている計測問題について、第 2 戦では途中経過をネットを介して本部へ情報を送る等の試みを予定している。成功すれば、他大会への参考にもなり得ると思う。

✚ 問題定義

第 2 戦近畿大会の特別規則において、IA のみファイナルクロスを実施することとされているが、シーズン途中で IB から IA へ昇格する規則(267 ページ 6-3)に関連し、IB クラスもファイナルクロスを実施すべきと指摘され、持ち帰り、ご確認頂くこととなった。」

※後日、確認返答を頂き、IA、IB とともにファイナルクロスを実施する様、特別規則を変更することが報告された。

■ JEC プロモーション

普及を目的とした競技会「JEC ライツ」は、3 戦をシリーズ化しチャンピオンを輩出し、SUGO2DAYS のエントリー料金を JEC にて負担する賞を設け、参加者に好評を得ている。前日土曜にはエンデューロアカデミーを開催し、毎回

定員になっていることや、参加者の技量も上がってきていることが報告された。
また、エリア戦等の情報提供が増加したことにより、ホームページは充実してきている。引き続きお願いしたい。

※ISDE の選出基準について、全日本ランキングだけでなく、海外レースや他団体の競技結果等も考慮すべきとの提案がなされ、現状規則でも「エンデューロ部会が特に認めた者」であれば承認される可能性もある為、あくまで全日本選手権の結果を優先とするが、早めに事務局で有資格者へ意志確認を行い、定員に空きがあった場合は検討することとなった。

3) 規則改訂(案)

① 失格の裁定

第 1 戦広島大会で、移動中にガソリンを給油し、失格裁定された件が報告され、282 ページのペナルティリストにある「オーガナイザーによって準備された補給エリア以外での補給=失格」に則り裁定されたことが報告された。

決定事項

275 ページ 16-1-9 の下段に「※282 ページ ペナルティリスト参照」を追記する
(上記以外の項目で同様のケースは、全て「参照」のコメントを追記)

② タイヤの使用について

中部部会より、使用されるタイヤの規制について徹底すべきとの提案がなされ、審議された。
また、選手会にて予め IA 選手の意見を収集された資料が提出され、事務局から説明された。

意見

- FIM 規則では、「如何なる改造も NG(カット、グルーミング、ケミカル)」とある。
- MX 用はグリップも良く、不公平となってしまう。TR 用は、FIM でも使用が認められている。
- エンデューロ用のみに規制すると、コストが高く、ライダーの負担が大きくなる。
- SUGO と近畿では、既に大会特別規則にて規制している。
- モトクロスタイヤは山を掘ってしまう為、環境問題の観点からも規制すべき。
- 規制を設けて、各大会主催者や車検でチェックが可能か? =エンデューロ部会の回答:可能。
- 選手の意見の多くは、「規制するのであれば、IA・IB まで」という意見が多く、ナショナルや承認クラスは発展途上の為、「規制すべきではない」との意見が多かった。

継続審議

案: IA・IB は国内競技規則書 288 ページの規則に則り、45M 以上・13mm 以下・一般に入手できるエンデューロ用タイヤであること。

N・W・承認は、これまで通り、規則化しない。

※上記をエンデューロ部会案とし、選手会に再度意見を聞き、次回決定する。

5. 委員会再編について

MFJ 組織の改編について MFJ 事務局より説明され、本会で現エンデューロ委員会を一旦解散とすることが承認された。

- 中央スポーツ委員会でビジョンを策定、確認を行うよう指導的な立場とし、各専門委員会が指導に則り、活動を展開していくよう改編する。
- スノーモービル、モータード、エンデューロを部会から委員会へ昇格。
- セーフティ委員会を新設し、装備部会(ヘルメット・スーツ)とメディカル部会を連ねる構成とする。
- すべての委員会で一旦解散とし、再編を行う。
- エンデューロ競技は、メーカーの関与が薄いため、メーカー担当者の委員就任については、当面行わない。

※エンデューロ部会長について

エンデューロ部会は本会にて一旦解散となることは承認されたが、新規エンデューロ委員会の委員長について、現・藤原広喜部会長の継続就任が全会一致で要望され、藤原氏の職務に差し障りの無いことを最低限の条件とし、次回までにご検討頂くこととなった。

また、モトクロス委員会からの派遣として部会の運営にご尽力頂いている池尻副部会長のエンデューロ部会員としての残留が全会一致で要望された。

以上
16 時閉会
MFJ エンデューロ部会
部会長 藤原 広喜